

# 令和7年度 事業計画・予算(案)

## (全体概要)



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# 1. 日本赤十字社長期ビジョン・第二次中期事業計画

## 「日本赤十字社 長期ビジョン」

計画実行

第一次中期事業計画  
(令和2~4年度)

令和2年度  
計画

令和3年度  
計画

令和4年度  
計画

第二次中期事業計画  
(令和5~7年度)

令和5年度  
計画

令和6年度  
計画

令和7年度  
計画

第三次中期事業計画  
(令和8~10年度)

令和8年度  
計画

令和9年度  
計画

令和10年度  
計画

創立150周年

### 令和6年度の主な出来事



令和6年能登半島大雨災害における  
救護活動・こころのケア活動



イスラエル・ガザ人道危機に  
おける野外病院の運営



レバノン人道危機における  
赤十字社の救急車の出動

## 第二次中期事業計画における事業横断的な重点テーマ

- ① 赤十字グループの総合力を発揮した大規模災害への対応
- ② 新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた新興感染症等への対応強化
- ③ 複合的な人道危機をもたらす気候変動に対する取り組みの強化
- ④ 人口構造の変化に対応した持続可能な事業(経営)基盤の強化

## 2. 令和7年度事業計画の主な取り組みテーマ

### (1) 中期事業計画の横断的テーマに基づく主な取り組み

#### ① 赤十字グループの総合力を発揮した大規模災害への対応



- 令和6年能登半島地震における救護活動の課題への対応
- 大規模地震対応計画の検証等による体制強化
- 地域医療の継続に向けた各医療施設の事業継続計画(BCP)の実効性の向上・訓練実施

#### ② 新興感染症等への対応強化



- ICTの推進による救急法等講習事業の実施体制強化
- 各医療施設の感染症対策マニュアルの実効性向上
- 企業等の勤務スタイルに適応した献血推進の確立

### ③ 複合的な人道危機をもたらす気候変動に対する取り組みの強化



- ・ 気候変動に対する意識啓発のためのキャンペーン実施
- ・ 環境に優しい事業運営(温室効果ガス排出量削減)の実現に向けた対応策の検討・実施

### ④ 人口構造の変化に対応した持続可能な事業(経営)基盤の強化



- ・ 赤十字事業にボランティアが参加しやすい体制の整備
- ・ 新たな会員、支援者等を拡大するための仕組みの構築
- ・ グループ経営の推進による赤十字病院の安定した経営基盤の確立
- ・ 将来を見据えた血液次期基幹システムへの更新

## (2) 事業・部門別の主な取り組みテーマ

### ① 救護・社会活動等



- ・ 行政・他機関と連携した地域貢献活動の推進
- ・ ICT機器の活用等によるサービスの質及び生産性向上のための業務効率化の推進
- ・ 國際的な優先的人道課題(イスラエル・ガザ人道危機、ウクライナ人道危機等)への対応

### ② 医療事業等



- ・ 地域医療構想に基づいた医療提供体制の整備
- ・ 医療安全の確保及び医療DX(デジタルトランスフォーメーション)によるグループ全体の医療の質の向上
- ・ 広く社会に貢献できる専門性の高い看護師の養成

### ③ 血液事業



- ・ 将来の献血基盤の確立に向けた各年齢層及び企業への献血推進
- ・ 輸血後副作用の減少を図る安全な輸血用血液の供給（細菌スクリーニング血小板製剤の導入）
- ・ 医療機関との更なる関係性の向上を目指した取り組み推進及び医療機関との連携強化

### ④ コーポレート

- ・ 創立150周年（2027年）以降、50年後までを見据えた将来構想（ビジョン）及び実行計画（プラン）の策定
- ・ 職員の成長支援の推進にかかる人事管理制度の構築
- ・ 日赤の活動内容への理解を図り、好意の促進に重点を置いた広報展開（大阪・関西万博への出展を含む）

### 3. 令和7年度計画・予算概要

総額 1兆5,032億円  
(歳出予算の合算)

医療施設特別会計  
1兆2,509億円 (83%)

資金特別会計  
310億円 (2%)

- ・退職給与資金 305億円
- ・退職年金資金 3億円
- ・損害填補資金 1億円

一般会計  
358億円 (2%)

社会福祉施設特別会計  
169億円 (1%)

(参考) 令和6年度予算額

一般会計: 368億円

社会福祉施設特別会計: 160億円

医療施設特別会計: 1兆2,159億円

血液事業特別会計: 1,625億円

資金特別会計: 315億円

※ 端数処理の関係から総額と  
内訳額は一致しないこと。

## 4. 日本赤十字社創立150周年とその後に向けて

- 長期ビジョン及び中期事業計画は、2027年(令和9年)5月の創立150周年までに達成すべき日本赤十字社の具体的な未来像を定めたもの。
- 令和5年度以降は、第二次中期事業計画の実施と併せ、その先の未来に向けた検討を本格的に開始。
- 職員と赤十字に関係する様々な人々が、普遍的な赤十字の理念のもと、社会課題に対応した赤十字を自らが作り上げていく意識を持つことが重要。その第一歩目として大阪・関西万博に出展。



# (1)創立150周年に目指すこと(日本赤十字社創立150周年プロジェクト)

- 赤十字の理念に共感、共鳴する人々と共に「新しい時代の赤十字」を作り上げる。
- そのため、まずはすべての職員がプロジェクトの目的・意義を理解し自分ゴト化する。
- 来し方を振り返り、赤十字の意味を再認識し、未来への展望を描く礎とする。



プロジェクトのスローガン

## (2) 記念ロゴによる創立150周年の発信



人と人が手をとりあい、互いに協力しあい、  
人道の輪が幾重にも重なり未来に向かって広がっていく、  
人間の無限の力を表しています。  
人道の輪は大きく花開く平和の花をも象徴しています。

